

刊行にあたって

歯科医療分野において、安心・安全な治療が叫ばれ、患者主体の対応が求められています。歯科処置のなかでも、抜歯は比較的頻度の高い外科処置であり、最も基本的な外科手術です。抜歯の原因は、二大疾患であるう蝕と歯周病に加えて、埋伏歯などの萌出異常、インプラントや矯正治療に伴う場合など、多岐にわたります。また、抜歯の難易度は歯の状態、口腔内の環境、患者の状態等によって大きく異なります。抜歯は主に口腔外科領域の手術であり、難抜歯になると一般開業医の手には負えず、口腔外科専門医や病院歯科等に紹介するケースもあるでしょうが、歯科医療に携わる以上、歯科医師にとって抜歯の技術は必要不可欠ですし、抜歯術を正しく習得することが、他の外科手術の礎にもなります。

しかし、すべての開業医が自信をもって安全・確実な抜歯ができているでしょうか。スキルや経験が不足している場合は、術者にとっても患者にとっても大変なストレスとなります。加えて、患者の全身状態の評価、麻酔、薬剤の使用、偶発症対策など幅広い知識が求められ、難抜歯ともなればリスクが高く、術後のトラブルにも配慮しなければなりません。

本書では、普通抜歯から難抜歯まで、さまざまな症例における抜歯操作の基本手技やポイント、縫合、術後管理までを詳細に解説しております。また、術前のシミュレーションイメージの構築のために、器具・器材の紹介から、術前診断、インフォームド・コンセント、治療計画の立案等についても述べております。

本書が、読者の先生方にとって、安全・確実な抜歯を行うための最新ガイドラインとなれば幸いです。

2010年9月
編集委員一同